

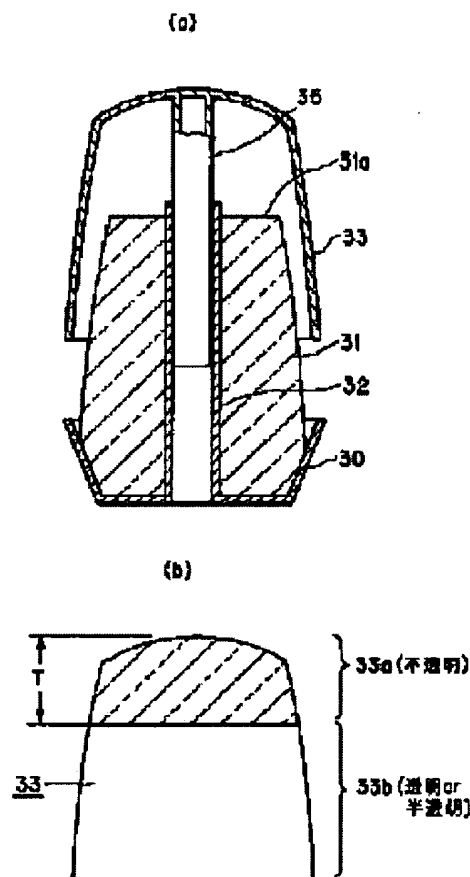
## FRAGRANCE

**Patent number:** JP11244369  
**Publication date:** 1999-09-14  
**Inventor:** TANAKA TAKEZO; IIDA YASUO; NAKANO SHIRO;  
 SAKAMOTO KENJI  
**Applicant:** LION CORP  
**Classification:**  
 - international: A61L9/12; A61L9/04  
 - european:  
**Application number:** JP19980051019 19980303  
**Priority number(s):** JP19980051019 19980303

### Abstract of JP11244369

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prevent the lid from being stuck by the drops of water that are generated when vapor is volatilized from components of the aqueous fragrances and to minimize the transparency deterioration of the lid due to discoloration or bleeding-out caused by volatilization of volatile organic material.

**SOLUTION:** An aqueous fragrance composition 31 which contains at least a gelatinizer, a fragrance and water is held around supporting pillar 32 that stands in case 30. Lid 33 is set to the pillar 32 as it can move toward the direction of the pillar's axis. The lid 33 is held as it is open toward the direction of the pillar 32's axis, so an opening can be made between the case 30 and the lid 33. The component of the fragrance should contain 0.5-20% gelatinizer, 0.1-10% perfume and more than 50% water of the whole amount and the material for the lid that is transparent or semi-transparent as the composition 31 can be watched from outside should be a synthetic resin in which alkyl acid fatty monoglyceride is mixed or the inside is coated with it.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-244369

(43) 公開日 平成11年(1999) 9月14日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 L 9/12  
9/04

識別記号

F I

A 6 1 L 9/12  
9/04

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-51019

(22) 出願日 平成10年(1998) 3月3日

(71) 出願人 000006769

ライオン株式会社

東京都墨田区本所1丁目3番7号

(74) 上記0名の代理人 弁理士 神田 正義

(72) 発明者 田中 丈三

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72) 発明者 飯田 康雄

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

(72) 発明者 中野 史郎

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内

最終頁に続く

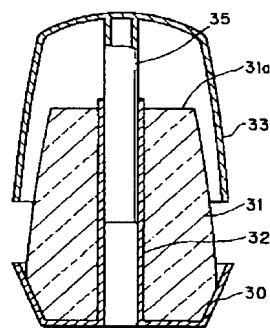
(54) 【発明の名称】 芳香剤製品

(57) 【要約】

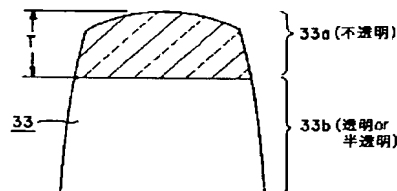
【課題】 水系芳香剤組成物から揮発する水蒸気が蓋体に接触した際に生じる水滴付着を防止できると共に、揮発する揮散性有機物による、変色やブリードアウトにより蓋体の透明性低下を最小限に押さえ得る芳香剤製品を提供する。

【解決手段】 容体30に立設された支柱32の周囲に少なくともゲル化剤と香料と水分を含有する水系芳香剤組成物31を保持し、該支柱32にその軸線方向に移動可能に蓋体33を装着し、この蓋体33を前記支柱32の軸線方向に解放した状態に保持することで前記容体30と蓋体33との間に開口を形成させる芳香剤製品において、前記芳香剤組成物は、ゲル化剤0.5～20%含有し、香料を0.1～10%含有し、かつ水分を50%以上含有し、内部の水系芳香剤組成物31を視認できる透明乃至半透明の蓋体の材質が、アルキル脂肪酸モノグリセライドを混練した、または、内面コーティングした合成樹脂とする。

(a)



(b)



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 容体と、該容体に立設された支柱と、この支柱の周囲に保持された少なくともゲル化剤と香料と水分を含有する水系芳香剤組成物と、該支柱にその軸線方向に移動可能に装着された蓋体とを備え、この蓋体を前記支柱の軸線方向に解放した状態に保持することで前記容体と蓋体との間に開口を形成させる芳香剤製品において、

前記水系芳香剤組成物は、ゲル化剤を0.5～20%含有し、香料を0.1～10%含有し、かつ、水分を50%以上含有しているものであって、

内部の前記水系芳香剤組成物を視認できる透明乃至半透明の蓋体の材質は、アルキル脂肪酸モノグリセライドを混練した、または、内面コーティングした合成樹脂からなるものであることを特徴とする芳香剤製品。

【請求項2】 前記蓋体の材質が、アルキル脂肪酸モノグリセライド0.1重量%以上0.6重量%未満混練した合成樹脂からなるものであることを特徴とする請求項1に記載の芳香剤製品。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、芳香剤製品に関し、特に容器内に芳香を発する揮散性有機物と水分を含有する水系芳香剤組成物を収容する芳香剤製品に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】芳香剤製品には、容器内に芳香を発する揮散性有機物と水分を含有する水系芳香剤組成物を収容したものがあり、室内等に置くことによって、室内等の空間内に好みの芳香を発して、悪臭を防止したり香りによるリラクセス効果等を得るようにするものである。

【0003】この種の芳香剤製品としては、図3に示すように、合成樹脂により形成された皿状の容体1内に立設された支柱2の回りに水性ゲル状組成物3を固着させ、前記水系芳香剤組成物3を覆う状態で該容体1に被着した合成樹脂製の深いカップ状の蓋体4の中央部に軸状の突出部4aを下方に突出形成する。そして、この突出部4aを支柱2内に装着することにより蓋体4を支柱2の軸線方向に沿ってスライド可能に設ける。これにより、芳香剤製品を、該蓋体4と容体1との間に水系芳香剤組成物3を空気に露出させるための開口5を設けることができる構造にし、この水系芳香剤組成物3を徐々に揮散させて使用するのが一般的である。また、蓋体4上下方向に移動させて水系芳香剤組成物3の側面部の露出度合いを変化させることにより、揮散性を調整可能に構成されている。

【0004】ところで、この種の容器の蓋体4と容体1との開口5を狭くしたり閉じた場合には、揮発した水蒸気が水滴として付着する。従来は、該蓋体4を不透明にすることにより付着した水滴を遮蔽し、人目に付かない

ようにしているものがあった。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】一方、内部の水系芳香剤組成物を視認できるよう該蓋体の材料を透明にすると、付着した水滴を透視できるため、一時的に蓋体の外観が見苦しくなり、また、内部の水系芳香剤組成物の視認性が著しく低下する。特に、芳香剤製品では、香料成分が揮発し、蓋体4に常に蒸着するため、香料の影響を受けにくいポリプロピレンやポリエチレンテレフタレート、ポリエチレン等の疎水性の合成樹脂が用いられており、蓋体の表面は疎水性になっていて水滴が発生し易くなるという問題点がある。

【0006】この水滴の発生という問題点を解決するためには、蓋体の表面を親水化すればよい。そのため、ほこりや粒子の汚れの付着を防ぐ目的で配合されている帯電防止材を合成樹脂に練り込めば、蓋体の表面を親水化でき、水蒸気の水滴付着は著しく軽減できると考えられる。

【0007】ところで、ポリプロピレンやポリエチレンには、カチオン界面活性剤アミン系の帯電防止剤が少量でも高い帯電防止効果を示し、練り込み性も良いため0.1%～3%程度配合されている。しかしながら、ほこりや微細ゴミの付着防止には効果が認められるものの、水滴付着防止効果は十分ではなかった。また、香料を配合した芳香剤組成物の香料成分によって帯電防止剤が着色し、合成樹脂が変色するという問題点があった。また、帯電防止剤が合成樹脂からしみ出て不透明化する（ブリードアウト）という問題点もあった。

【0008】本発明は、前記の問題点を解消するためなされたものであって、水分と揮散性有機物を含有する水系芳香剤組成物から揮発する水蒸気が蓋体に接触した際に生じる水滴付着を防止することができ、それと共に、揮発する揮散性有機物による、変色やブリードアウトにより蓋体の透明性低下を最小限に押さえることができる芳香剤製品を提供することを目的とする。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の目的を達成するため、次の構成を有する。請求項1の発明は、容体と、該容体に立設された支柱と、この支柱の周囲に保持された少なくともゲル化剤と香料と水分を含有する水系芳香剤組成物（水性芳香剤組成物と同じ）と、該支柱にその軸線方向に移動可能に装着された蓋体とを備え、この蓋体を前記支柱の軸線方向に解放した状態に保持することで前記容体と蓋体との間に開口を形成させる芳香剤製品において、前記水系芳香剤組成物は、ゲル化剤を0.5～20%含有し、香料を0.1～10%含有し、かつ、水分を50%以上含有しているものであって、内部の前記水系芳香剤組成物を視認できる透明乃至半透明の蓋体の材質は、アルキル脂肪酸モノグリセライドを混練した、または、内面コーティングした合成樹脂

からなるものであることを特徴とする芳香剤製品である。請求項2の発明は、前記蓋体の材質が、アルキル脂肪酸モノグリセライドを0.1重量%以上0.6重量%未満混練した合成樹脂からなるものであることを特徴とする請求項1に記載の芳香剤製品である。

【0010】請求項1の発明においては、少なくともゲル化剤と香料と水分を含有する水系芳香剤組成物は、ゲル化剤を0.5～20%含有する。当該組成物がこの範囲にゲル化剤を含有する理由は、前記組成物にゲル化剤を0.5%未満含有したのでは、ゲルとしての保形性が不十分となるからであり、一方、20%以下の含有で芳香剤としての保形性を得るに十分な量であり、20%を超過して含有しても格別な効果が得られずコストアップとなる上に、粘度が高くなりすぎて他成分を混入させ難いからである。本発明のゲル化剤の成分例としては、 $\alpha$ -カラギーナン、 $\gamma$ -カラギーナン、ローカストビーンガムのような天然系ゲル化剤や、ポリビニルピロリドン、ポリビニルエウメタクリレート、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルアルコール、アセトアセチル化PVA又はこれらの誘導体などのビニル系ポリマー、ポリアクリル酸とその塩、ポリアクリル酸エステルとこれらの共重合体、架橋型アクリル酸ポリマーとその塩などのアクリル酸ポリマー、ポリオールとイソシアネート誘導体等を原料とするウレタン結合を有するウレタンポリマーのような合成系ゲル化剤などで、これら成分の併用も可能である。

【0011】また、前記水系芳香剤組成物は、香料を0.1～10%含有する。当該組成物が、この範囲に香料を含有する理由は、0.1%未満としたのでは、「芳香剤」として香りが不十分であり、一方10%を超過したのでは、この水系組成物として安定性を保つのが難しく、水系に配合するための可溶化や乳化に用いる界面活性剤や溶剤の使用量が増大してしまい、コストアップとなるからである。本発明の香料の成分例としては、 $\alpha$ -ピネン、 $\beta$ -ピネン、ミルセン、1,8-シネオールのようなテルペン系炭化水素類、アミルアセテート、プレニルアセテート、ヘキシリアセテート、シス-3-ヘキセニルアセテート、アリルカプロエート、テトラヒドロリナリルアセテート、エチルカプロエート、エチルブチレート、エチルアセトアセテート、アリルイソアミルオキシアセテート、エチルメチルフェニルグリコレート、エチル-p-メチル- $\beta$ -フェニルグリコレート、ベンジルアセテート、ポリビニルアセテート、p-トブチルシクロヘキシリアセテート、o-トブチルシクロヘキシリアセテート、セドリルアセテート、メチルジヒドロジャスモネート、リナリルアセテートのようなエステル類、炭素数6～13の脂肪族アルデヒド、ベンズアルデヒド、2,4-ジメチル-3-シクロヘキセン-1-カルボキシアルデヒド、 $\alpha$ -n-アミルシンナミックアルデヒド、 $\alpha$ -n-ヘキシルシンナミックアルデヒド、リ

リアルデヒド、リラル、ミラックアルデヒド、シトラール、シクラメンアルデヒドなどのようなアルデヒド類、 $\gamma$ -ノナラクトン、 $\gamma$ -デカラクトン、 $\gamma$ -ウンデカラクトン、 $\delta$ -ノナラクトン、 $\delta$ -デカラクトン、 $\delta$ -ウンデカラクトンのようなラクトン類、イオノン、メチルイオノンのようなケトン類、リナロール、テトラヒドロリナロール、 $\beta$ -フェニルエチルアルコール、ゲラニオール、シトロネロールのようなアルコール類、レモン油、オレンジ油、ライム油、ユーカリ油、ヒノキ油、ヒバ油、パイン油、テレピン油、ホー油、ラベンダー油、ジャスミン油、バニラ、ペパーミント、スベアミントのような精油類がある。これら成分は単独でも2種以上混合しても良い。また、前記水系芳香剤組成物は、水分を50%以上含有している。なお、水分の含有率の上限は、当該組成物のうちでゲル化剤と香料を除く残量全部になる。また、当該組成物が水分を50%以上含有する理由は、水分が50%未満では粘度が高く製造工程で他成分を混ぜにくいからである。

【0012】また、内部の水系芳香剤組成物を視認できる透明乃至半透明の蓋体の材質が、アルキル脂肪酸モノグリセライドを混練した、または、内面コーティングした合成樹脂からなるものであるので、蓋体自体または内面が親水性になるので内表面は濡れ性が良くなり水系芳香剤組成物からの揮発した水分などにより結露による水滴が付着することがない。また、蓋体は水系芳香剤組成物の揮散成分に対して変色やブリードアウトを十分に防止できる。特に、請求項2のように、蓋体の材質をアルキル脂肪酸モノグリセライドを0.1重量%以上0.6重量%未満混練した合成樹脂とすれば、効果的である。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を詳細に説明する。本発明で用いることができる芳香剤は、芳香性組成物、消臭性組成物、抗菌性組成物などの揮散性有機物を含有し、少なくともゲル化剤と香料と水分を含有する水系芳香剤組成物（水性芳香剤組成物）であり、ゲル化剤を0.5～20%含有し、香料を0.1～10%含有し、かつ、水分を50%以上含有している。この実施形態で用いる水系芳香剤組成物としては、例えば、水にカップカラギーナン等のゲル状にするための物質を均一に分散させた後、ポリオキシエチレンアルキルエーテル等の界面活性剤、エチレングリコール等の多価アルコール、界面活性剤、香料、植物精油、植物抽出物、防腐剤、抗菌剤等を添加・攪拌し、その後、円錐台状等、所定の形状に成形した芳香剤等があげられる。

【0014】図1(a)、(b)は、実施形態に係る芳香剤製品の断面説明図、蓋体の側面図である。図1

(a)に示すように、実施形態に係る芳香剤製品は、容器30に立設された支柱32と、この支柱32の周囲に水系芳香剤組成物31を固着させ、前記容器30に被着した蓋体33を前記支柱32の軸線方向、すなわち、前

記容体30から離間する方向に移動させることにより、前記容体30と該蓋体33との間に前記水系芳香剤組成物31の下端部が露出する開口34を形成している。なお、蓋体33は逆コップ型とされており、蓋体33の天井部内面中央に突設されたパイプ状の支持ロッド35を前記支柱32に内挿することによって、蓋体33が支柱32に沿ってスライド自在に支持されて、開口34の開度を任意に変化させることができるようにしている。

【0015】本発明に用いられる蓋体33の材質は、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリエチレン等の合成樹脂を用いることができる。また、水滴防止のために、蓋体の材質としては、硬化牛脂アルキル脂肪酸モノグリセライド等のアルキル脂肪酸モノグリセライドを透明プラスチックに0.1重量%以上0.6重量

レモン香料	: 5.0重量% (シトラール1.5%含有)
カッパカラギーナン	: 2.0重量%
POE 2級アルキルエーテル	: 15.0重量%
エチレングリコール	: 2.0重量%
イソパラフィン	: 2.0重量%
水	: 74.0重量%

【0018】また、この透明ゲルは、下記の方法により作成した。上記組成のうち、まず、カッパカラギーナンを水に分散させた後、攪拌・加熱し90°Cとした。カッパカラギーナンが完全に水に溶解した後、放冷して60°Cとし、他の成分を添加・攪拌した後、所定の形状の支柱(32)を有する透明なポリプロピレン容器(容体30)に140g充填し、25°C室内に40分間放冷し透明ゲルとした。この透明ゲルはその後、透明なポリプロピレン製の円錐台のカバーを装着し、所定の形状の容器内に収納した透明ゲルとした。

【0019】また、効果を確認するために用いた評価方法は、次の通りとした。

(1) 使用中の蓋体内部の水滴付着防止能

容器内に収容したゲル組成物の蓋体を5mm上方にスライドさせて開口させ、20°C、65%RHの恒温恒湿室に一時間置いた後、10°Cの恒温槽に3時間置いた後に蓋体内部に付着した水滴の状態と、蓋体内部の水系芳香剤組成物の視認性を目視で評価した。

【0020】判定基準

○：蓋体での水滴付着が認められず、蓋体内部が視認できる。

×：蓋体に水滴付着が認められ、かつ、蓋体内部を視認できないかあるいは視認しにくい。

【0021】(2) 蓋体の変色の有無

容器内に収納したゲル組成物を蓋体を開口しない状態で室温で2カ月間静置した後、蓋体の変色の有無をゲル組成物を収納していない容器を対象にして肉眼で評価した。

%未満配合することが必要であり、0.1重量%未満では効果が認められず、0.6重量%以上では配合後、ブリードアウトによる容器の透明度低下が顕著となる。

【0016】また、通常の容器の帯電防止の目的で、アルキルジエタノールアミンやジステアシルペンタエリスリトールジホスファイト等を併用してもよい。透明プラスチックへの上記水滴付着防止剤の配合は、マスターバッチ法により直接混練してペレットにしてもよい。上記透明プラスチックには、着色剤を入れてもよい。

【0017】次に、本発明の具体的な事例を以下に実施例として示す。また、実施例と比較するために行った3つの実験例を比較例1、比較例2、比較例3として示す。ここでは、水系芳香剤組成物として以下の組成の透明ゲルを用いた。

【0022】判定基準

○：対象品に比べて蓋体の曇りによる透明度の低下あるいは蓋体の黄変などの着色が顕著でない。

×：対象品に曇りによる蓋体の曇りによる透明度の低下あるいは蓋体の黄変などの着色が顕著である。

【0023】(実施例1) ポリプロピレンチップ(チップA)に硬化牛脂脂肪酸モノグリセライドを0.1重量%となるように、混練したものを射出成形により、蓋体を作製した。

【0024】(実施例2) チップAに硬化牛脂脂肪酸モノグリセライドを0.3重量%、ジステアシルペンタエリスリトール0.03重量%となるように混練したものを射出成形により、蓋体を作製した。

【0025】(比較例1) チップAを原料とし射出成形により蓋体を作製した。

(比較例2) チップAにヤシ油アルキルジエタノールアミンを1.0重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

【0026】(比較例3) チップAに第4級アンモニウム化合物TTITON K60を0.3重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

(比較例4) チップAにジステアシルペンタエリスリトールを0.3重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

【0027】上記の実施例1、2と比較例1～4の評価結果は次表のようになった。

【表1】

	実施例		比較例			
	1	2	1	2	3	4
水滴付着防止能	○	○	×	×	×	×
蓋体の変色の有無	○	○	○	×	×	○

【0028】実施形態に係る芳香剤製品を説明する。近年、基剤の水系芳香剤組成物をクリアーな透明にしたり、ゲル中に有色のカプセルを分散させるなどして、美麗な外観を持たせて、香の他に美観も与えるようにした水系芳香剤組成物が用いられている。また、蓋体の材質を透明あるいは半透明にすることで、収納されている水系芳香剤組成物が視認しやすくなるため、使用中の見た目も楽しめる形態にできて、この場合さらに、経時による水系芳香剤組成物の収縮状態が目視できるので、水系芳香剤組成物の消耗程度の確認が容易となるという利点を有する。

【0029】しかし、水系芳香剤組成物を製造する際には、配合や充填時に混入した気泡が水系芳香剤組成物の上面に残ったまま冷却固化してしまうことが多く、細かい気泡の固まりや大きな気泡が破裂した跡などが美観という点からの不具合となる。上記の透明乃至半透明な蓋体を用いた場合、この不具合が顕著に視認されてしまうという問題が生じる。

【0030】すなわち、図2に示すように、水系芳香剤組成物31は、蓋体33を取った状態で容体30に仮筒40を嵌めてその仮筒40内に充填され、埃などが入らないように上方から仮蓋41で覆い、その上から蓋体33を被せて流通・販売される。そして、この芳香剤製品を購入したユーザーは、図1に示すように、前記の仮蓋41を外しかつ蓋体33のみを被せて使用する。

【0031】そして、容体30には液状に溶けた水系芳香剤組成物31が充填されるが、充填時に気泡を巻き込むので、放冷中にその気泡が浮き出てきて、水系芳香剤組成物31の上面部31aには固まった気泡などによる凹凸部42が残る。その結果、実施形態の芳香剤製品において、蓋体33にポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、ポリエチレンなどの透明感のある材料を選定し中の芳香剤の美しい状態が見えるようにして美観を高めユーザーの購買意欲を高めようとしても、この水系芳香剤組成物31の上面部31aの凹凸部42により美観の面で劣るという印象をユーザーに与えてしまう恐れがある。

【0032】そこで、この凹凸部42のできた水系芳香剤組成物上面部31aが見えないようにするため、図1(b)に示すように、蓋体を33の上部33aのみを不透明に形成するものである。そして、芳香剤製品を使用していくと、水系芳香剤組成物31の発散料の調整のた

めに蓋体33をスライドさせるが、蓋体33を上方にスライドさせた状態でも水系芳香剤組成物上面31aが見えないように、ある程度の高さT（一例として30mm）をもって蓋体33の上部33aを不透明にすることが好適である。蓋体33のその他の部分33bは透明あるいは半透明にする。

【0033】前記蓋体33の上部のみを不透明化するには、点状や線状の細かい凹凸を施したり、成形後の着色や、上部を別パーツとして顔料を含む不透明樹脂で成形しこれと組み合わせるなどの方法を用いることができる。製造性の観点から細かい凹凸を施すのが最も好ましく、また、その処理方法にはシボ加工が最適である。シボ加工として金型に凹凸を付けるには一般的に用いられている、薬剤腐食法、放電加工法、サンドブラスト法などの手法を用いることができる。また、これらの処理を施す不透明部分の大きさは、蓋体を容体との間に開口をあけてセットした状態で水系芳香剤組成物の上端を覆う大きさが必要であり、香気性能との関係により開口部の大きさにもよるが、蓋体頂部から垂直方向に $T=5\text{mm} \sim 60\text{mm}$ 、最も好ましくは30mmの高さとなるよう蓋体に設けられる。

【0034】この実施形態の芳香剤製品の硬化を確認するために、用いた評価方法は次の通りとした。未使用状態の水系芳香剤組成物を収容した芳香剤製品を、容体の皿部から蓋体を10mm引き上げた状態で目視し、その外観を判定した。

#### 【0035】目視判定基準

○：水系芳香剤組成物の大部分が視認でき、かつ水系芳香剤組成物の上端がかくれており、美麗な外観を呈している。

×：水系芳香剤組成物の上端を含めて水系芳香剤組成物の大部分が視認でき、美麗さが劣る外観である。または、水系芳香剤組成物下部の一部分しか視認できず、美麗さが劣る外観である。

【0036】（実施例3）蓋体頂部から垂直方向に30mmの高さとなるような蓋体表面に該当する金型部分に、薬剤腐食法によりシボ状の凹凸を形成した容器蓋体を得た。この凹凸部を顕微鏡により測定した結果、該凹凸部の天部と底部との段差は50μmから2mmの範囲にあり、平均段差は400μmであった。また、該凹凸部のうち凸部の天面の最長径は50μmから3mmの範囲にあり、平均最長径は700μmであった。

【0037】(実施例4) ポリプロピレン製の透明な蓋体の、頂部から垂直方向に30mmの高さとなるような蓋体表面部分を塗料で着色し不透明とした。

【0038】(実施例5) 蓋体頂部から垂直方向に30mmの高さとなるような部分とその下部とを組み合わせる蓋体を、上部を顔料に混合したポリプロピレン、下部は顔料を含まないポリプロピレンでそれぞれ成形し、両者を組み立てて得たものである。

【0039】(比較例5) ポリプロピレン製の全面が透明な蓋体を用いた。

【0040】(比較例6) 顔料を分散させたポリプロピレン製の全面が不透明な蓋体を用いた。

【0041】

【表2】

	実施例			比較例	
	3	4	5	5	6
芳香剤の外観	○	○	○	×	×

【0042】次に、本発明の芳香剤製品に好適な仮蓋について説明する。一方、仮蓋41の形状について、図2(a)に示すように、仮蓋41の中央部の嵌合突起41aを筒状に形成して、この嵌合突起41aを支柱32に外装すると、仮筒40内に充填する水系芳香剤組成物31は嵌合突起41aが邪魔になってこの嵌合突起41aの下縁までしか充填できない。これでは、ユーザーは商品購入に際し水系芳香剤組成物が最初から目減りしているような印象を持ってしまい、好ましくない。

【0043】そこで、図2の(b)に示すように、仮蓋41の嵌合突起41aを支柱32内に挿入するように形成すれば、仮筒40内には水系芳香剤組成物31を口元まで一杯に充填でき、ユーザーが最初から目減りした印

象を持つことがなく、極めて好ましい。

【0044】なお、前記の実施形態では本発明の好適例を説明したが、本発明はこれに限定されないことはもちろんである。例えば、前記実施形態では、蓋体の材質が、アルキル脂肪酸モノグリセリドを混練したプラスチックなどの合成樹脂からなるものであったが、蓋体の材質をアルキル脂肪酸モノグリセリドを内面コーティングした合成樹脂からなるものであっても、同様に本発明の効果を奏することができる。

【0045】

【発明の効果】以上説明した通り、本発明によれば、水分と揮散性有機物を含有する水系芳香剤組成物から揮発する水蒸気が蓋体に接触した際に生じる水滴付着を防止することができ、それと共に、揮発する揮散性有機物による、変色やブリードアウトにより蓋体の透明性低下を最小限に押さえることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る芳香剤製品の説明図であって(a)は全体断面図、(b)は蓋体の側面図である。

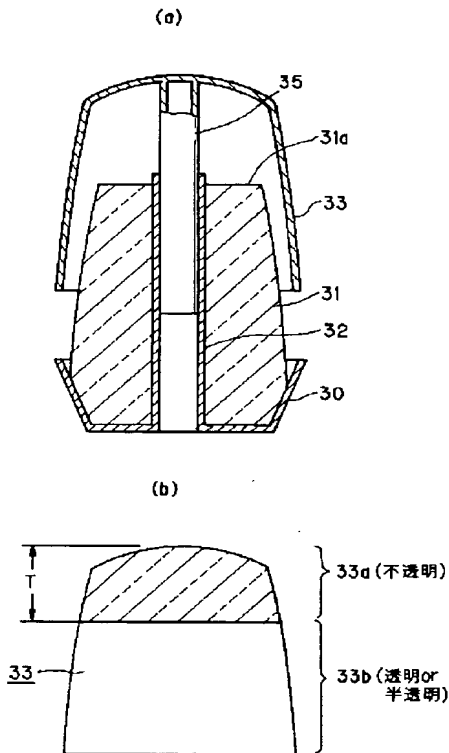
【図2】(a)、(b)は実施形態の水系芳香剤組成物の仮筒内への充填状態説明図である。

【図3】従来の芳香剤製品の説明図であって(a)は全体側面図、(b)は全体断面図である。

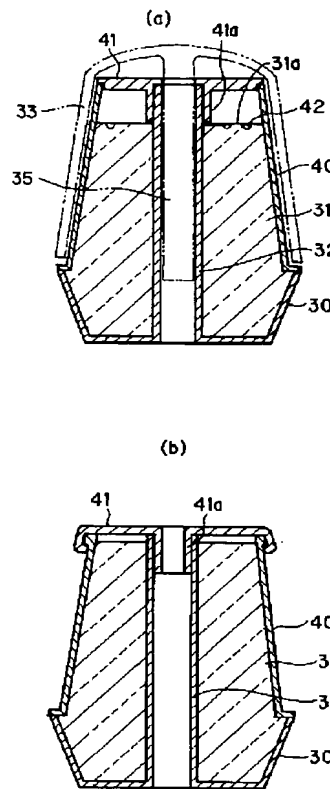
【符号の説明】

- 30 容体
- 31 水系芳香剤組成物
- 32 支柱
- 33 蓋体
- 33a 不透明部分
- 34 開口
- 40 仮筒
- 41 仮蓋

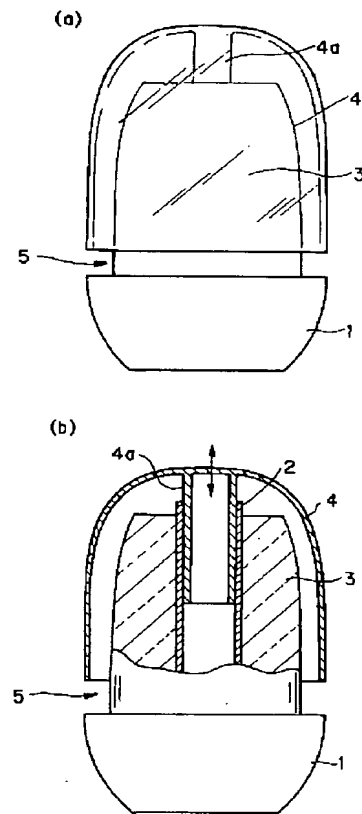
【図1】



【図2】



【図3】



## 【手続補正書】

【提出日】平成10年5月15日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

## 【補正内容】

【0025】（比較例1）チップAを原料とし射出成形により蓋体を作製した。

（比較例2）チップAにヤシ油アルキルジエタノールアミンを0.5重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

## 【補正内容】

【0026】（比較例3）チップAに第4級アンモニウム化合物TRITON K60を0.3重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

（比較例4）チップAにジステアリルペンタエリスリトールを0.3重量%となるように混練りしたものを原料として射出成形により蓋体を作製した。

フロントページの続き

(72)発明者 坂本 憲二

東京都墨田区本所1丁目3番7号 ライオン株式会社内



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**